

ネットワーク形成による包括的支援の成果と課題

—A 県 B 圏域の C ネットにおける障害者を対象とした就業支援の取り組み事例から—

○ 社会福祉法人若竹会 湊 直 司(007436)

合同会社 地域計画 熊谷 智義(007774)

キーワード：障害者支援，ネットワーク，連携

1. 研究目的

障害者の支援において、支援のネットワーク化は就業支援のみならず、地域支援の要として、金科玉条のごとく流布されている。筆者らも地域のネットワークを最大限に利用して、数々の取り組み実績を上げてきた。例えば趣向を凝らした啓発イベントの開催や、支援体制の整備等である。しかし、時間の経過とともにその活動や取り組みに対する意識は変容していく。組織に寿命があるのは歴然とした事実であり、終結を意識したネットワークを構築しないと、そこには当初の理念型のミッションとは乖離した別の組織体に変容してしまう恐れがある。そのことにより機能不全を起こしてしまうのだが、そこにかかわる者には、その事業体の継続のみがミッションになってしまい、当初の目的が変容してしまう。

これまでのネットワーク論ではその成果の研究や構造の研究が多く、実際のネットワーク形成を対象とした経年変化の視点からの分析はほとんど行われていない。

そこで本研究では、事例分析によってその成果と課題を明らかにする事を目的とする。

2. 研究の視点および方法

ネットワークという言葉は、社会科学をはじめとした様々な分野で用いられ、その意味するニュアンスも様々である。本報告では、障害者の就労に焦点を当てたネットワークの取り組みであるが、人の行為に関わる以上、単に働くということへの支援に留まらない生活全般まで敷衍化する取り組みに注目する。そこにネットワークを構築するという事は、その言葉の意味をある程度定義化する必要があることから、ここでは松為(2002)の「継続的な機関連携」という視点と「ネットワーク構築の重層構造」の視点で捉える。

また、ネットワーク形成に関わった立場から、参与観察法により事実の経過の分析を行うと共に、既往研究を踏まえて考察を図る。

3. 倫理的配慮

日本社会福祉学会研究倫理指針を遵守して報告を行う。

4. 研究結果

B圏域におけるCネットの取り組みは、まさに重層構造のネットワーク構築の形であった。当初、地域の福祉関係者(県行政、市町村行政、福祉事業者、支援学校、当事者会)からなる任意団体を結成し、いわゆる、グラノヴェッター(2006)の「弱い紐帯の強さ」を想起させる状況の中で、地域啓発の活動を続けてきた。さらに、各機能に応じて専門機関の連携体を構築し課題に対処してもきた。任意団体としての自由度の高いネットワーク機能(マクロネット

ワーク)と、専門機関の事業体としての業務に関するネットワーク機能(メゾあるいはマイクロネットワーク)が良好なバランスの上に運営されていた。特にマイクロネットワークの機能は、地域啓発イベントや新たな支援機能の創設など、イノベーション機能として重要な役割を担ってきた。そして、その存在がメゾもしくはマイクロネットワークの活動をも活性化させる触媒機能を果たしていたともいえる。そのこと自体が大きな成果である。

しかし、その機能の重要度が増すにつれ、そのネットワーク自体を事業体化する動きが出てきた。一般にそうであるように、イノベーション機能そのものに運営の基盤を置くような運営費がつくわけではなく、制度上の事業を遂行することにより運営できる体制がとられた。そのことは、時間の経過と共に、イノベーションという視点から事業遂行という職務に変化をもたらしてきた。

その結果、活動当初の活性は弱まり、行政は委託者としての立場に戻り、協働の熱も冷めたといえる。ネットワーク上のノードを繋ぐ各紐帯は途切れ途切れになったのである。

5. 考察

この実践事例から、グラノヴェターの視点とは違った形で、任意または制約の弱さという意味合いでの、「弱い紐帯の強さ」が存在することがわかった。そこにはそのネットワークを運営する事務局機能がポジティブな感性を持つことが重要であるという条件がつくものの、ネットワークの各ノードを繋ぐ紐帯は任意の活動により、しなやかで強いものになるといえる。それは、やらされ感ではない自らの意志で関わるという体験ゆえの結果といえる。組織としての硬直化はネットワークの崩壊を意味する。あるいはネットワークには寿命が有るという捉え方が適切かもしれない。それ故に、ミッションの終了はネットワークの終結という認識の下に、常に新陳代謝を図ることが重要ではないかと考える。しかし、その終結の判断基準をどこに置き、だれが宣言するのが大きな課題である。

《参考文献》

- 石黒格(2006)「県内若者の就労にパーソナル・ネットワークの多様性が与える影響」弘前大学リポジトリ。
大槻知史(2003)「都市住民のパーソナルネットワークの機能・構造分析」立命館人間科学研究第7号。
荻野亮吾,中村由香(2012)「地域における社会的ネットワークの形成過程に関する研究」東京大学大学院教育研究科紀要 第52巻。
小川浩(2009)「地域における障害者の就労支援ネットワークに関する調査研究」NPO法人ジョブコーチ・ネットワーク。
野沢慎司(2009)『ネットワーク論に何ができるか「家族・コミュニティ問題」を解く』勁草書房。
濱崎雅弘,武田英明,大向一輝,市瀬龍太郎(2004)「パーソナルネットワークを利用したコミュニティシステムの提案と分析」人工知能学会論文誌19巻5号D。
M・グラノヴェター(2007)『リーディングスネットワーク論』勁草書房。
松為信雄(2002)「障害者の雇用促進と福祉の連携ーリハビリテーションを視点としてー」季刊社会保障研究。
森岡清志編(2002)『パーソナルネットワークの構造と変容』東京都立大学出版会。
山下祐介(2003)「社会的ネットワークと地域活性化」人文社会論叢 人文科学篇。